

玉

藻

第25号

関

晃

先生御退職記念号

一九九〇年(平成二年)三月三十日発行

目次

関 晃 先生を送る……………	福田 進之輔 (一)
関 晃 先生 年譜・著作目録……………	(三)
百済の砂宅智積について……………	関 晃 (一四)
「柏」「樗」の字訓……………	佐藤 喜代治 (一七)
紫式部日記の〈光〉と〈闇〉……………	三田村 雅子 (二九)
——闇の底へ——	渡部 泰明 (四四)
「ふるまふ」・「ふるまひ」考……………	藤江 峰夫 (五七)
——藤原俊成・顯昭の歌合判詞を中心にして——	
西鶴の咄の種……………	藤江 峰夫 (五七)
——『西鶴諸国はなし』中の三篇をめぐって——	
芥川文学にみるへひとすぢの路……………	宮坂 覺 (七七)
——「蜜柑」「トロッコ」「少年」をめぐって——	
上代における日本語の二つの層 (上)……………	安部 清哉 (八九)
——カヅフとヨムの場合——	
『方言文法全国地図・第一集』を刊行して……………	佐藤 亮一 (九六)
——その特色と問題点——	

有間皇子の歌	久保田 恭子 (一三)
石見相聞歌初案成立の意義	福本 容子 (一三)
明石の君の「異郷」	久保 圭子 (一四)
——六条院を中心に——	
浮舟・さすらいの物語空間	横山 由美子 (一六)
「問はず語り」研究	古武 律子 (一七)
『暗夜行路』研究	宇佐美 聖子 (一九)
芥川における〈罪〉と〈罰〉	曳地 久美子 (二〇)
——「河童」「齒車」を中心に——	
中原中也研究	三木 麻理子 (二四)
——愛兒文也をめぐる——	
島尾敏雄の文学	穴場 紫野 (三七)
——その愛を中心として——	
「しぐれ」考	新井 映子 (三四)
昭和六十三年年度 国文学科卒業論文題目	(二四五)
彙報	(二四八)

玉 藻 第二十五号

一九九〇(平成二)年三月二十日 印刷

一九九〇(平成二)年三月三十日 発行

編集兼 フェリス女学院大学国文学会
発行人 代表者 福田 準之輔

印刷所 早稲田大学印刷所

発行所 フェリス女学院大学国文学会
横浜市中区山手町三七